名寄産業高等学校「名農キャンパス」として新たな門出
ー名寄農業高等学校ー

道北地域の農業後継者の育成に貢献してきた名寄農業高等学校は、昭和１６年４月に開校以来、７０年の歴史とともにこれまで、７，３０８人を輩出してきました。４月からは名寄産業高等学校への完全統合により「名農キャンパス」としてのスタートとなります。

農林業に従事する人材育成

名寄農業高等学校は昭和16年4月に農業科と林業科をもつ北海道庁立名寄農業学校として創立し昭和23年4月、北海道立名寄農業高等学校、同24年4月に北海道名寄農業高等学校と校名が変更となりました。

そして昭和23年から周辺地域7つの分校を設置しました。これら分校は昭和27年度にそれぞれ町村立の新制高等学校として独立し、当時の道北地域の進学率の向上にも大きな役割を果たしました。

農業自営者養成の拡充に貢献

名寄農業高等学校は、学科の増設や廃止など幾多の変遷を経て昭和41年度には道内の農業高校の先駆けとして文部省から「自営者養成農業高等学校」として指定を受け、地域の営農実態の把握や農業経営の分析・設計などに努め、昭和45年には北海道教育実践表彰を受賞。さらに平成7年には国の「高等学校教育課程研究指定校」として教育課程の工夫や改善方法を全道に普及しました。

生産から販売まで「みずならショップ」

平成13年の学科転換で「酪農科」と「生産科学科」になったことで生産・加工・流通といった各分野への就職を目的とした実習施設への移行が進められました。こうしたなか生徒の販売実習の場として、また、生徒の実習成果を地域に還元し、学校の教育活動を地域に周知することを目的とするショップの設置が課題となっていました。そこで学科転換で使用しなくなった肉加工室を職員と生徒の手作りで再利用し、出来上がったのが「みずならショップ」です。

このショップはまちのイベントにも出店すると、数分で完売する盛況ぶり。その存在を地域に浸透させました。

「みずならショップ」での販売

農業クラブで全国大会出場

農業教育課程の一環として、農業クラブがあり農業知識などを競う日本学校農業クラブ連盟が行う各種部門の大会でも全国大会に出場するなどの実績を上げてきました。

70年の歴史に幕・名寄産業高等学校に引き継がれる

少子化による中学校卒業者の減少に伴い、名寄光凌高等学校と名寄農業高等学校が統合再編されることとなり、平成21年4月に名寄産業高校が開校しました。この年から農業高校は生徒募集を停止し、在校生36人を送り出し今年3月に閉校します。

そして4月から校舎、実習棟、農場、寮（教育寮・遠隔者寮）などの施設は「名農キャンパス」として引き継がれます。また、名寄農業高等学校の校訓の一つである「拓北」は名寄産業高等学校の校訓を「北を拓く」としたことで残り、学校祭の名称も「拓北祭」となることから「名農の拓北魂」は受け継がれることとなります。

※次の証明書の発行窓口は4月から名寄産業高等学校となります。
『卒業証明書』『成績証明書』

農場公開でのかぼちゃの定植